

巻頭言

元号が令和に変わって初めての高知工科大学紀要を第16巻として発刊いたします。本学は平成9年、すなわち1997年4月1日に開学し、今年度で23年目に入っています。本学は、これまでにない新しい大学として、本学の地域や規模を活かした特色ある大学運営によって発展してきました。この間に大学を構成する人は交代しました。学生は毎年大学から巣立っていきまし、教職員も開学時から継続して在籍する人はわずかになっています。その中で紀要は、教育研究の現場からその活動を記録するものであり、大学の足跡をたどる有力な手掛かりとなるものです。そして、本学で時代の先頭を切る先駆的な精神が受け継がれていることを知ることができます。紀要でしか見ることのできない、本学の活動がここに豊富に詰まっているのです。

本号では、特に、研究センターなどで本学が重点的に進めている研究課題について紹介いたします。本学全体の研究活動の一部ではありますが、その特徴的な内容の一端をご理解いただけるものと思います。また、昨年までに引き続き、里山プロジェクトの進展を紹介いたします。山間部の集落における人間と自然の営みが、科学の目をもって解き明かされていく過程がご覧いただけるものと思います。さらに、英語教育、地域貢献、事務局の歴史をたどった記事は、これまでの本学の活動をまとめ、読者に紹介するとともに、後世に本学の歴史をたどるための資料となるものです。この他にも、本学の教育、研究、社会貢献の活動の事例として、多くの記事を掲載しています。

大学は研究によって知の先端を切り開き、それを伝授して学生を教育し、それを利用して社会に貢献することを目的としています。紀要を通じて、そのような大学の営みを感じていただければ無上の喜びです。

学長 磯部雅彦

